

# 専門分野

成人看護学



## シラバス

科目名	成人看護学総論	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者		教員	
学習のねらい	<p>成人期にある人々の特徴及び発達課題、健康問題について、生活環境との関連性から学習する。 成人期にある人々を取り巻く保健・医療・福祉システムおよび代表的な概念や理論について学び、看護への応用について考えを深める。 各健康レベルの概要を理解し、その状況に応じた看護実践について学習を深める。</p>										
目的・目標	<p>目的；成人期の概要および医療システムを理解し、各健康レベルに応じた看護のあり方を理解する。 目標；1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴、健康問題の特徴について理解できる。 2. 健康問題が社会生活に及ぼす影響を理解し、健康を支援する保健・医療・福祉システムと結びつけて解釈できる。 3. 成人看護学で用いられる代表的な概念や看護理論を理解できる。 4. 各健康レベルにおける看護の意義を理解し、その状況に応じた看護実践を考察できる。</p>										
授業計画	<p>1回 (45分×2) 成人と生活：成人各期の定義と特徴 2回 (45分×2) 成人の生活と健康：成人各期の生活と健康問題 3回 (45分×2) 生活と健康を守るシステム：保健・医療・福祉システム 4回 (45分×2) ヘルスプロモーションと看護 5回 (45分×2) 健康を脅かす要因と看護 6回 (45分×2) 成人への看護アプローチの基本①：アンドラゴジー、トランスセオレティカルモデル 7回 (45分×2) 成人への看護アプローチの基本②：倫理的判断、意思決定支援、家族支援 8回 (45分×2) 健康レベルに応じた看護（急性期）：危機理論、ボディイメージ、喪失への適応過程 9回 (45分×2) 健康レベルに応じた看護（急性期）：治療過程による看護技術 10回 (45分×2) 健康レベルに応じた看護（リハビリ期）：障害受容過程 11回 (45分×2) 健康レベルに応じた看護（慢性期）：病みの軌跡理論、セルフマネジメント、症状マネジメント 12回 (45分×2) 健康レベルに応じた看護（終末期）：死の受容過程、全人的苦痛、予期的悲嘆 13回 (45分×2) 療養の場を移行する人々の看護技術 14回 (45分×2) 新たな治療法、先端医療と看護 15回 (45分×2) 筆記試験</p>										
評価方法	筆記試験（80%）、レポート内容（20%）で評価する										
教科書	<p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向</p>										
参考文献											
履修要件											

## シラバス

科目名	成人看護援助論 I	単位	1	時間数	30	開講時期	1 年次後期	担当者	呼吸器看護師 集中ケア認定看護師 教員
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各系統に沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	目的；呼吸器、循環器、血液・造血器疾患の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。 目標；1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各系統における、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。								
授業計画	1 回	(45 分×2)	呼吸機能障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	2-3 回	(45 分×4)	呼吸機能障害のある患者のアセスメントと看護	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、結核					
	4-5 回	(45 分×4)	呼吸機能障害のある患者のアセスメントと看護	気胸、肺がん					
	6 回	(45 分×2)	循環器障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	7 回	(45 分×2)	循環器障害のある患者のアセスメントと看護	不整脈					
	8-9 回	(45 分×2)	循環器障害のある患者のアセスメントと看護	虚血性心疾患					
	10-11 回	(45 分×2)	循環器障害のある患者のアセスメントと看護	動脈疾患					
	12-13 回	(45 分×2)	血液・造血器障害のある患者のアセスメントと看護	造血器腫瘍					
	14 回	(45 分×2)	血液・造血器障害のある患者のアセスメントと看護	赤血球系異常（貧血）					
	15 回	(45 分×2)	血液・造血器障害のある患者のアセスメントと看護	出血傾向・白血球減少					
		(45 分)	筆記試験						
評価方法	筆記試験 呼吸機能障害看護 30% (1～3；呼吸器看護師 20%、4～5；集中ケア認定看護師 10%) 循環機能障害看護 40% 血液機能障害看護 30%								
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 ②呼吸器、③循環器、④血液・造血器 医学書院								
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	成人看護学総論を履修していることが望ましい。								

## シラバス

科目名	成人看護援助論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者	教員 糖尿病認定看護師 皮膚排泄ケア認定看護師
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各系統に沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	目的； 消化器、内分泌、糖代謝、膠原病疾患の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。 目標； 1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各系統における、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。								
授業計画	1回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	2回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	食道がん					
	3回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	胃がん、胃・十二指腸潰瘍					
	4回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	肝臓がん、肝炎、胆嚢結石					
	5回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	膵臓がん、膵炎					
	6回	(45分×2)	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護	大腸がん					
	7回	(45分×2)	内分泌機能障害のある患者のアセスメントと看護	甲状腺機能亢進・低下症、副甲状腺機能低下症					
	8-9回	(45分×4)	内部環境調節機能障害のある患者のアセスメントと看護	糖尿病					
	10回	(45分×2)	内部環境調節機能障害のある患者のアセスメントと看護	演習；血糖測定					
	11回	(45分×2)	内部環境調節機能障害のある患者のアセスメントと看護	高脂血症、高尿酸血症					
	12回	(45分×2)	生体防御機能障害を持つ患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	13回	(45分×2)	生体防御機能障害を持つ患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	14回	(45分×2)	生体防御機能障害を持つ患者のアセスメントと看護	アレルギー①					
	15回	(45分×2)	生体防御機能障害を持つ患者のアセスメントと看護	膠原病②					
		(45分)	筆記テスト						
評価方法	筆記試験	消化機能障害看護 40%、内分泌機能障害看護 5%、排泄機能障害看護 5% 内部環境調節機能障害看護 25%、生体防御機能障害看護 25%							
教科書	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑤	消化器	医学書院					
	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑥	内分泌・代謝	医学書院					
	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑪	アレルギー 膠原病 感染症	医学書院					
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	成人看護学総論を履修していることが望ましい。								

## シラバス

科目名	成人看護援助論Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講時期	1 年次後期	担当者	脳神経外科看護師 整形外科エキスパート看護師 皮膚排泄ケア認定看護師 乳がん認定看護師 腎不全看護師
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各系統に沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	目的；運動機能障害、脳・神経機能障害、排泄機能障害、生殖機能障害の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。 目標；1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各系統における、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。								
授業計画	1 回	(45 分×2)	脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理①					
	2 回	(45 分×2)	脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理②					
	3 回	(45 分×2)	脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護	脳血管疾患、脳腫瘍、頭部外傷					
	4 回	(45 分×2)	脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護	パーキンソン病、重症筋無力症など					
	5 回	(45 分×2)	脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護	多発性硬化症、筋ジストロフィーなど					
	6-8 回	(45 分×6)	排尿機能障害のある患者のアセスメントと看護	IgA 腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、透析療法					
	9 回	(45 分×2)	排尿機能障害のある患者のアセスメントと看護	排泄機能障害					
	10 回	(45 分×2)	乳腺機能障害を持つ患者のアセスメントと看護	乳がん					
	11 回	(45 分×2)	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護	症状とその病態生理					
	12 回	(45 分×2)	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護	関節リウマチ					
	13 回	(45 分×2)	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護	変形性関節症					
	14 回	(45 分×2)	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護	腰椎椎間板ヘルニア					
	15 回	(45 分×2)	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護	脊髄損傷、骨腫瘍					
		(45 分)	筆記試験						
評価方法	筆記試験 脳神経機能障害看護 35%、排泄機能障害看護 24% 生殖器機能障害看護 6%、運動機能障害看護 35%								
教科書	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑦	脳・神経	医学書院					
	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑧	腎・泌尿器	医学書院					
	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑨	女性生殖器	医学書院					
	系統看護学講座—専門Ⅱ	成人看護学⑩	運動器	医学書院					
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	成人看護学総論を履修していることが望ましい。								

## シラバス

科目名	成人看護学演習 I	単位	1	時間数	15	開講時期	2年次前期	担当者		教員	
学習のねらい	回復期にある対象を理解し、回復期にある患者がその人らしい生活を再構築するためのプロセスを理解するとともに、疾患や障害によって変化した QOL を再構築するために必要な看護支援方法について、看護過程の展開を行い修得する。										
目的・目標	目的；回復期についての理解を深め、既習知識を基盤に演習を実施し、看護過程の展開技術を修得する。 目標；1.回復期における看護の特徴を理解できる。 2.回復期における対象の日常生活拡大・自立への援助を計画・実施できる。										
授業計画	1回 (45分×2) 演習オリエンテーション [脳梗塞の事例] 看護過程；情報の整理 2-3回 (45分×4) 看護過程；アセスメント (分析/統合) 4-5回 (45分×4) 看護過程；関連図 6-8回 (45分×6) 看護過程；看護診断、期待される成果と看護計画、実施・評価 ※ 看護過程では優先順位#1に対する1場面を実施し、実施・評価を記載する ※ 実際にグループごとに看護師役、患者役になり実践する										
評価方法	演習へのとり組み方 (10%)、提出状況と内容 (50%)、グループワーク参加状況 (30%)、発表状況 (10%)										
教科書	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院										
参考文献	必要に応じて資料を提示・配布する										
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、成人看護学総論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい										

## シラバス

科目名	成人看護学演習Ⅱ	単位	2	時間数	30	開講時期	2年次後期	担当者	教員 緩和ケア認定看護師																																																												
学習のねらい	急性期にある対象は、急激な侵襲による身体的変化によって、生命が脅かされた状態に陥る。そのため、生命を維持できるために必要な観察と的確な処置やケアが必要とされている。講義、シミュレーション教育を通して、看護実践できる力を修得する。 終末期にある対象は、疾患からくる障害により、痛みや呼吸困難といった苦痛を伴う症状がもたらされ、人間本来の存在をも脅かされる状態となり、霊的苦痛を味わうことになる。講義、演習を通して看護実践できる力を修得する。																																																																				
目的・目標	目的；対象の健康レベルに即した患者理解のために必要な知識を習得する。また、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス（判断能力、応用能力、問題解決能力）を養い、基本的な援助を修得する。 目標；1. 急性期の状態をアセスメントし、看護の方向性を考えることができる。 2. 手術療法と起こりうる合併症およびその予防と対処方法を説明できる。 3. 術後合併症を予防するための看護を演習で実践できる 4. 終末期における特徴的なアセスメント、疾病や症状コントロールのために必要とされる看護援助について理解することができる																																																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>(45分×2)</td> <td>周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>手術侵襲に対する生体反応と回復過程</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>(45分×2)</td> <td>周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>術前の看護</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>(45分×2)</td> <td>周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>術中の看護</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>(45分×2)</td> <td>周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>術後の看護</td> </tr> <tr> <td>5-8回</td> <td>(45分×8)</td> <td>周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>周手術期の事例展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1) 術前のアセスメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2) 術後1日目の観察 術創・ドレーンの管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3) 早期離床・術後合併症予防に向けての援助</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4) パンフレット指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>(45分×2)</td> <td>緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解</td> <td>ターミナルケア・緩和ケアの考え方</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>(45分×2)</td> <td>緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解</td> <td>ターミナル期にある人と家族の特徴</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>(45分×2)</td> <td>緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解</td> <td>身体・心理・社会・霊的特徴</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>(45分×2)</td> <td>緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解</td> <td>ターミナル期にある人と家族への看護</td> </tr> <tr> <td>13-14回</td> <td>(45分×4)</td> <td>緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解</td> <td>終末期の事例展開（演習）</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>(45分×2)</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> </table>									1回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	手術侵襲に対する生体反応と回復過程	2回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術前の看護	3回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術中の看護	4回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術後の看護	5-8回	(45分×8)	周手術期にある人の特徴と理解	周手術期の事例展開			1) 術前のアセスメント				2) 術後1日目の観察 術創・ドレーンの管理				3) 早期離床・術後合併症予防に向けての援助				4) パンフレット指導		9回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナルケア・緩和ケアの考え方	10回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナル期にある人と家族の特徴	11回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	身体・心理・社会・霊的特徴	12回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナル期にある人と家族への看護	13-14回	(45分×4)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	終末期の事例展開（演習）	15回	(45分×2)	筆記試験	
1回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	手術侵襲に対する生体反応と回復過程																																																																		
2回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術前の看護																																																																		
3回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術中の看護																																																																		
4回	(45分×2)	周手術期にある人の特徴と理解	術後の看護																																																																		
5-8回	(45分×8)	周手術期にある人の特徴と理解	周手術期の事例展開																																																																		
		1) 術前のアセスメント																																																																			
		2) 術後1日目の観察 術創・ドレーンの管理																																																																			
		3) 早期離床・術後合併症予防に向けての援助																																																																			
		4) パンフレット指導																																																																			
9回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナルケア・緩和ケアの考え方																																																																		
10回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナル期にある人と家族の特徴																																																																		
11回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	身体・心理・社会・霊的特徴																																																																		
12回	(45分×2)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	ターミナル期にある人と家族への看護																																																																		
13-14回	(45分×4)	緩和・ターミナル期にある人の特徴と理解	終末期の事例展開（演習）																																																																		
15回	(45分×2)	筆記試験																																																																			
評価方法	筆記試験（50%）、演習への取り組み方；提出状況と内容、グループワーク参加状況、発表状況（50%）																																																																				
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院																																																																				
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する																																																																				
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、成人看護学総論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい																																																																				

